

環境科学科

高山国道事務所とのビオトープ整備
グリーンインフラ大賞で特別優秀賞国土省のグリーンインフラ大賞で
「高山西ICビオトープ」が受賞

高山国道事務所が造った「高山西ICビオトープ」(清見町牧ヶ洞Ⅱ左下写真)が、国土交通省の主催するグリーンインフラ大賞で、大臣賞に次ぐ「特別優秀賞」を受賞した。

同大賞は、全国の民間企業や団体などによる、自然と共生する社会を体現する優れた取り組みを表彰するもの。ビオトープとは、自然の生態系を

再現し生き物や植物を育てる空間を意味する。同ビオトープは、中部



縦貫自動車道・高山清見道路の建設をきっかけに平成16年に整備された。同自動車道建設により動植物の生息環境が分断され、従来の自然環境が大きく変化する可能性があった。

そこで、動植物などの専門家をつくる「飛騨地域エコロード検討委」のアドバイスを基に、周辺で自生していたナラや山桜などの木の根株を同インターチェンジ内に移した。

21年からは飛騨高山高環境科学科の生徒が、植物や昆虫の調査、草刈りといった環境学習を実施している。

これまでにキキョウやマルタンヤンマ、モリアオガエル、ミズオオバコなどの重要種が確認されたという。